

## 協伸商会穀物レポート [KKR] Vol. 051

(2022/23年度 USDA米国農務省 10月12日発表)

[ハイライト]

## ①世界の今年度穀物生産は北半球（米国/EU/インド）は早魃で減少、南半球（BRA/ARG）は好調。シカゴは乱高下

主要穀物の今年度作況がほぼ固まってきたが、総じて北半球（米国/EU諸国）は収穫期を迎え高温/乾燥懸念から前年比減産、南半球（BRA/ARG）は天候に恵まれ大幅増産される見通しである。詳細は需給表と下記コメントの通りであるが、それに伴いシカゴ定期は小麦が\$8.80/buと前月比1㍩近い大幅上昇、8月時点で5㍩台半ばまで下落したでコーンは6㍩台後半迄上昇。一方大豆は、南米の大豊作と世界生産が4億㍩に迫る勢い等から13㍩台半ばと大きく下落した。

## ② UKR「黒海回廊」は8月開始以降約600万㍩輸出したが、船体検査遅延で滞船が長期化

7月末合意した「黒海回廊」経由のUKR穀物輸出は、この間比較的順調でこの2か月間で約600万㍩船積されたが、マラマラ海には現在約120隻が滞船し検査待ちは約9日間と長期化している。クリミア大橋爆破による通行制限は9日には解除され同日52隻が通過したと報告されている。問題は11月末期限の協定延長なるかであるが、ロシアは自国産穀物輸出が阻害されているとして否定的である。一方国連は、期間の延長と肥料等積出品目の追加の考えを示している。UKRの小麦/コーンの生産見通し（20.5/31.5百万㍩）に変更はないが、コーン輸出数量は13⇒15.5百万㍩と増加した。

## ③世界の植物油生産量の急拡大と脱炭素燃料としてのバイオディーゼルに注目度高まる

世界的に最近注目は食用消費とあわせバイオ燃料としての植物油生産量が急拡大していることである。世界の植物油生産量は約2億㍩と2005年以降倍増。うちパーム油73、大豆油59、ナタネ油29百万㍩の3品目で約8割生産。一方、植物油を原料とするバイオディーゼル生産量は2010年18.4⇒21年48.6百万㍩と2.6倍増となり大きく拡大した。（次号に続く）

## 1、世界穀物需給の概要（大豆を除く）

① 生産量:	2,747百万㍩	(前年比1.5% 減↓、前月比0.3% 減↓)
② 消費量:	2,775百万㍩	(前年比0.8% 減↓、前月比0.3% 減↓)
③ 貿易量:	487百万㍩	(前年比3.9% 減↓、前月比0.3% 減↓)

## 2、とうもろこし

① 生産量:	1,169百万㍩	(前年比4.0% 減↓、前月比0.3% 減↓)
② 消費量:	1,175百万㍩	(前年比2.4% 減↓、前月比0.5% 減↓)
③ 貿易量:	181百万㍩	(前年比9.8% 減↓、前月比0.3% 減↓)

④ 概況: 世界生産量は、南半球は好調であるが米国/EU/UKR等の減産の為前年12.1億㍩超から4千万㍩の大幅減少。特に米国は大豆生産シフトの為前年3.8⇒3.5億㍩に減産。それに伴い消費量も減少。貿易量は昨年2億㍩を超えたが今年度は1.8億㍩と10%近い減少見通し。今後肥料価格の高騰と大豆価格の優位性からコーン⇒大豆へのシフトが進む可能性がある。期末在庫301百万㍩/在庫率25.6%と微増。うち中国は前月比百万㍩減少し206百万㍩（68%）。

⑤ 価格: **\$6.83/Bu** (前年\$5.42/Bu / 前月\$6.69/Bu) と前月比\$0.14 上昇。

## 3、小麦

① 生産量:	782百万㍩	(前年比0.2% 増↑、前月比0.3% 減↓)
② 消費量:	790百万㍩	(前年比0.5% 減↓、前月比0.1% 減↓)
③ 貿易量:	208百万㍩	(前年比2.7% 増↑、前月比0.3% 減↓)

④ 概況: 世界生産量は、前年比ロシア/カナダ大幅増産（ロ75⇒91、カ22⇒35百万㍩）、UKR/インド/EU等の減産分（ウ33⇒21、イ110⇒103、E139⇒135）を補い史上最高見通し。消費量は若干減少するが貿易量は昨年同様2億㍩を超え拡大。期末在庫は268百万㍩/在庫率33.9%と若干低下。うち中国144百万㍩と変わらず（54%）。

⑤ 価格: **\$8.80/Bu** (前年\$7.55/Bu / 前月\$7.93/Bu) と前月比\$0.87 上昇。

## 4、大豆

① 生産量:	391百万㍩	(前年比9.9% 増↑、前月比0.3% 増↑)
② 消費量:	380百万㍩	(前年比4.6% 増↑、前月比0.7% 増↑)
③ 貿易量:	169百万㍩	(前年比9.5% 増↑、前月比0.6% 増↑)

④ 概況: 世界生産量は、米国が早魃の為若干減少したが南米BRA/ARGの大幅増産（B127⇒152、A44⇒51百万㍩）のため4億㍩に迫る勢いで史上最高見通し。消費量は中国で5百万㍩増加、貿易量も中国が牽引（94⇒98百万㍩）し10%近く増加。期末在庫は101百万㍩/在庫率26.4%。うちBRA31/ARG24で半分以上、米国5百万㍩とほぼ売り切り。

⑤ 価格: **\$13.67/Bu** (前年\$12.47/Bu / 前月\$15.11/Bu) と前月比\$1.44 下落。

# 世界の穀物・大豆等の需給

2022年10月12日  
米国農務省発表： 単位100万トン

主要穀物世界の需給							
		生産量	総供給量	貿易量	総使用量	期末在庫量	
全穀物	2019/20	2,725	3,543	488	2,741	801	
	2020/21	2,799	3,600	509	2,806	794	
	2021/22	9月	2,756	3,555	489	2,783	772
	2022/23	10月	2,747	3,541	487	2,775	766
小麦	2019/20	775	1,073	203	782	290	
	2020/21	780	1,070	203	794	276	
	2021/22	9月	784	1,060	209	791	269
	2022/23	10月	782	1,058	208	790	268
粗粒穀物 (とうもろこし等) 注1	2019/20	1,441	1,779	234	1,456	323	
	2020/21	1,504	1,827	251	1,492	334	
	2021/22	9月	1,464	1,802	226	1,473	330
	2022/23	10月	1,460	1,794	226	1,467	327
米	2019/20	509	692	51	503	188	
	2020/21	515	703	55	519	184	
	2021/22	9月	508	693	54	519	174
	2022/23	10月	505	689	53	518	171
大豆	2019/20	368	463	165	363	100	
	2020/21	356	456	154	363	92	
	2021/22	9月	390	479	168	378	102
	2022/23	10月	391	483	169	380	103

世界のとうもろこし需給							
		期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	9月	312.14	1,172.58	178.25	1,180.18	183.58	304.53
	10月	307.01	1,168.74	178.96	1,174.55	183.04	301.19
アメリカ	9月	38.73	354.19	0.64	304.81	57.79	30.95
	10月	34.98	352.95	1.27	304.81	54.61	29.77
アルゼンチン	9月	1.49	55.00	0.01	14.00	41.00	1.49
	10月	1.49	55.00	0.01	14.00	41.00	1.49
ブラジル	9月	4.65	126.00	1.30	77.00	47.00	7.95
	10月	4.95	126.00	1.30	77.00	47.00	8.25
EU	9月	9.66	58.80	19.00	77.40	2.70	7.36
	10月	9.96	56.20	20.00	76.10	2.70	7.36
日本	9月	1.38	0.01	15.20	15.20	0.00	1.39
	10月	1.38	0.01	15.00	15.00	0.00	1.39
中国	9月	210.24	274.00	18.00	295.00	0.02	207.22
	10月	209.24	274.00	18.00	295.00	0.02	206.22
ロシア	9月	0.93	15.00	0.05	11.20	4.00	0.78
	10月	0.93	15.00	0.05	11.20	4.00	0.78
ウクライナ	9月	5.57	31.50	0.00	12.70	13.00	11.37
	10月	4.57	31.50	0.00	10.70	15.50	9.87

世界の大豆需給							
		期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	9月	89.70	389.77	165.02	377.68	167.88	98.92
	10月	92.38	390.99	166.23	380.24	168.84	100.52
アメリカ	9月	6.53	119.16	0.41	63.91	56.74	5.44
	10月	7.45	117.38	0.41	64.15	55.66	5.44
アルゼンチン	9月	22.55	51.00	4.80	48.25	4.70	25.40
	10月	23.15	51.00	4.80	47.75	7.00	24.20
ブラジル	9月	22.46	149.00	0.75	53.85	89.00	29.36
	10月	23.16	152.00	0.75	55.10	89.50	31.31
中国	9月	30.74	18.40	97.00	115.59	0.10	30.46
	10月	30.74	18.40	98.00	116.59	0.10	30.46
EU	9月	0.93	2.60	14.80	16.78	0.22	1.33
	10月	0.93	2.50	14.80	16.78	0.22	1.23

世界の小麦需給							
		期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	9月	275.67	783.92	204.14	791.02	208.89	268.57
	10月	276.01	781.70	203.86	790.17	208.33	267.54
アメリカ	9月	17.96	48.52	2.99	30.43	22.45	16.60
	10月	18.21	44.90	3.27	29.61	21.09	15.68
アルゼンチン	9月	1.78	19.00	0.01	6.35	13.00	1.43
	10月	2.03	17.50	0.01	6.25	12.00	1.28
オーストラリア	9月	3.50	33.00	0.20	8.55	25.00	3.15
	10月	3.50	33.00	0.20	8.55	25.00	3.15
カナダ	9月	3.67	35.00	0.60	9.10	26.00	4.17
	10月	3.67	35.00	0.60	9.10	26.00	4.17
EU	9月	13.43	132.10	5.50	108.00	33.50	9.53
	10月	13.43	134.75	5.50	108.75	35.00	9.93
中国	9月	141.76	138.00	9.50	144.00	0.90	144.36
	10月	141.76	138.00	9.50	144.00	0.90	144.36
インド	9月	19.50	103.00	0.03	104.50	6.50	11.53
	10月	19.50	103.00	0.03	104.50	6.50	11.53
ロシア	9月	11.09	91.00	0.30	45.00	42.00	15.39
	10月	11.09	91.00	0.30	45.00	42.00	15.39
ウクライナ	9月	5.81	20.50	0.10	10.70	11.00	4.71
	10月	5.81	20.50	0.10	10.70	11.00	4.71

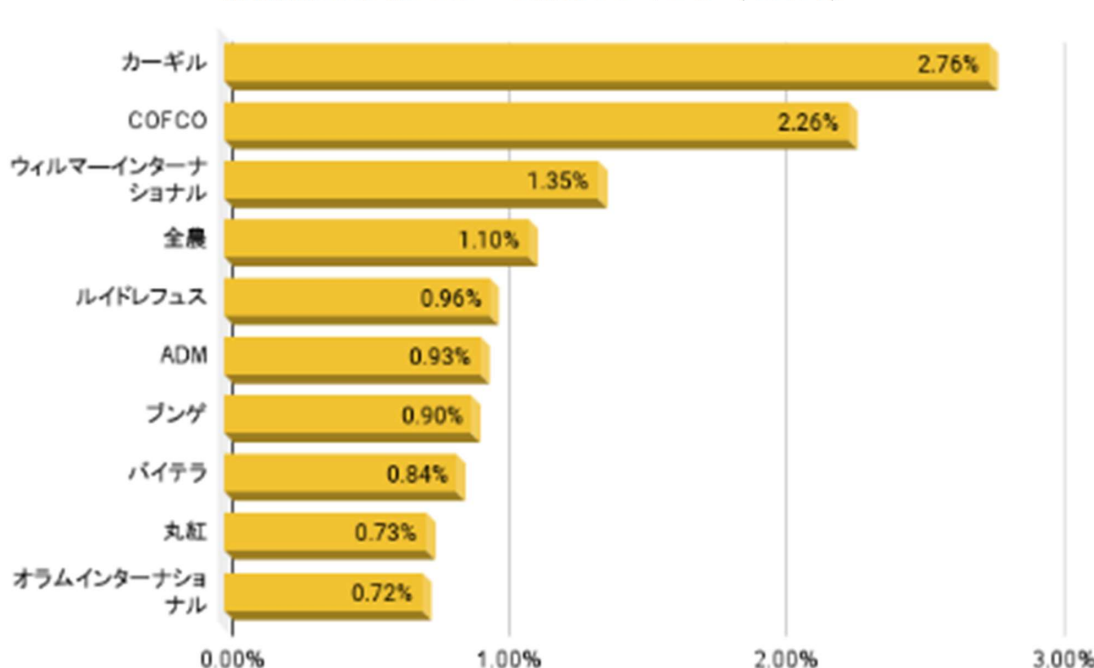
脚注1：粗粒穀物はとうもろこし、マイロ、大麦、燕麦、ライ麦等の計で約80%がとうもろこしである。

脚注2：年度は穀物年度。地域・作物により異なる。例：アメリカ産とうもろこし、大豆：9月～8月。

# 世界の食品産業と穀物需給(7)

- 過去2回、農林水産政策研究所「2030年における世界食料需給見通し」をベースに地域別穀物消費量と肉類消費量予測解説を行ったが、今回は食品産業の中でその両サイドの消費動向に大きな影響力を持つ「穀物メジャー」の現状と各社の再編の動向の一端について報告したい。
- 現在、一般的に「穀物メジャー」と呼ばれる代表的企業は所謂「ABCD」の4社(ADM/Bunge/Cargill/Dreyfus)であるが、歴史的に見ればその顔ぶれと事業実態は大きく変化してきている。また、その中で穀物メジャーの概念そのものの変化も迫られている。従来穀物メジャーは、食品産業の構図の中で言えば穀物の集荷/貯蔵/輸送/販売などを事業軸とした所謂「川上」での存在感が強かったが、近年2000年以降は従来事業と併せ製粉/製油/精糖等の加工食品分野や飼料/食肉加工等の畜産分野、またバイオエタノール/肥料/船舶運用等の周辺分野も含め「川下」にも進出し、極めて幅の広い事業体として変容して来ている。同時に見逃せないのは、従来の伝統的世界に新たなタイプの企業群が参入してきている点である。
- [図1]は、経済統計と企業分析専門「ディーララボ社」が公表した2021年「穀物商社世界市場シェアと業界ランキング」である。これを見ると、Cargillを筆頭に所謂「ABCD」4社は名前を連ねているが、Top10の中にCOFCO/Wilmar Int/全農/Viterra/丸紅等の企業がランクアップされているのが目を引く。この穀物商社全体の市場規模は4兆8639億<sup>ドル</sup>(約560兆円/\$1=115円)/取扱数量約30億<sup>ト</sup>とされているが金額ベースでみると1位Cargill=15.5兆円~10位Olam Int=約4兆円と幅が広いが上記5社は其々特徴のあるバックグラウンドを持っている。具体的には、COFCO(中糧集団)=中国「国営穀物輸入商社」年1.5億<sup>ト</sup>、近い中国穀物輸入取扱/事業規模12.7兆円/穀物取扱高1.14億<sup>ト</sup>、Wilmar=「ブランテーション型穀物商社」星港本社/事業規模7.6兆円/製粉/搾油(パーム油)41百万<sup>ト</sup>/精糖等広範な事業体。全農=「協同組合理型穀物商社」事業規模6.2兆円(米国含むと推定)/ZGC社穀物輸出数量約2千万<sup>ト</sup>と単一エレベーターとして世界最大/カナダCHS・豪州CBH・アルゼンチンACA社との協同組合理貿易。Viterra=「資源企業型穀物商社」スイス本社の世界最大級の鉱山資源会社「GLENCORE」の子会社でカナダにおける最大の穀物取扱商社/事業規模4.7兆円/今年1月丸紅Gavilon買収し世界3位に躍進。丸紅=「日本型穀物商社」4.1兆円/全農除いた商社で穀物取扱量#1。
- 次に[表1]に示したのが2012年以降10年間の穀物商社(穀物メジャー)の他社買収と再編の動向であるが、特に目立つのはCOFCO/Cargill/ADMの3社の動きである。具体的には、COFCO⇒13年オランダ穀物商社Nidera、同年星港Noble Agriを買収。今年3月にはBRAサントス港の穀物ターミナル予定地25年賃貸借権を1千万レアル(約2.7億円)で落札、今後7.6億レアル(約200億円)投資し年1,400万<sup>ト</sup>積出能力のサイロ/バース建設、2026年稼働予定。またCargill⇒1999年Continental Grain社の穀物部門を買収したのを皮切りに2014年トルコ油脂大手Turyag、15年サーモン用添加剤メーカーEWOS、飼料配合ソフト大手Format Int、17年北米動物飼料事業をSouthern State Coopから買収。ADM⇒1983年ドイツ穀物商社AC topher買収、92年英国Pillsburyに資本参加、2014年15年と食品添加剤や香料大手等を買収し、其々穀物や食品産業分野における事業多角化と寡占化をなお一層進めている。なお、穀物メジャーは1970年代のAndre-GarnacやCock Industriesも含めた5大メジャー「ABCCD」時代から50年の変遷を経て両社は退場し、現在はADM+前述の数社を含めた新たな「ABCD」+α時代へと変容してきていると言える。
- 日本勢の動きとしては、20年12月CGB社(全農)がBunge社のMiss River下流域の穀物リバーターミナル26基を買収、米国中西部にカントリーエレベーター含め合計120基余り(集荷能力約25百万<sup>ト</sup>)の展開となり穀物集荷力が大幅に強化されたことが注目される。また、22年1月には丸紅が穀物メジャーを目指して12年に取得したGavilonをViterraに売却したことが目新しい。(続く)

穀物商社の市場シェアと業界ランキング (2021年)



【図1】

穀物商社の近年の買収/再編の動向 (2012年以降)

【表1】

年	社名	買収/再編の動向
2012年	丸紅	・ガビロンを買収
2013年	COFCO	・オランダの穀物商社ニデラの株式51%を1200億円超で買収 ・シンガポールの商品取引会社ノーブル・グループの農産物部門であるノーブル・アグリ株式51%を買収
2014年	カーギル	・トルコの油脂大手Turyagの買収
	ADM	・食品成分大手のSpeciality Commoditiesの買収 ・香料大手のワイルドフレーバーズの買収
2015年	カーギル	・サーモン向け栄養補助剤大手のEWOSの買収 ・飼料配合ソフト大手のフォーマット・インターナショナルの買収
	ADM	・香料大手のイースタンフーズの買収
2016年	カーギル	・SGS Microingredientsの買収
2017年	COFCO	・ニデラをコフコ・インターナショナルへ再編
	カーギル	・北米動物飼料事業をSouthern State Coopより買収
	ADM	・甘味剤メーカーのChamtorの買収
2017年	ブンゲ	・油脂大手IOIの買収
	グレンコア	・穀物商社部門をグレンコアアグリカルチャーとして分社化 ・グレンコア・アグリカルチャーの分社化
2020年	全農	・ブンゲの穀物ターミナルの買収
	グレンコア	・グレンコアアグリカルチャーがバイテラへと社名変更
2022年	丸紅	・ガビロンをバイテラ(元グレンコアの穀物商社部門)へ売却
	オラム	・食品原材料部門をOFIグループとして分社化を発表
	COFCO	・BRAサントス港の25年賃貸契約を落札。今後約200億円投資しサイロ/船積施設増設、2026年稼働予定。